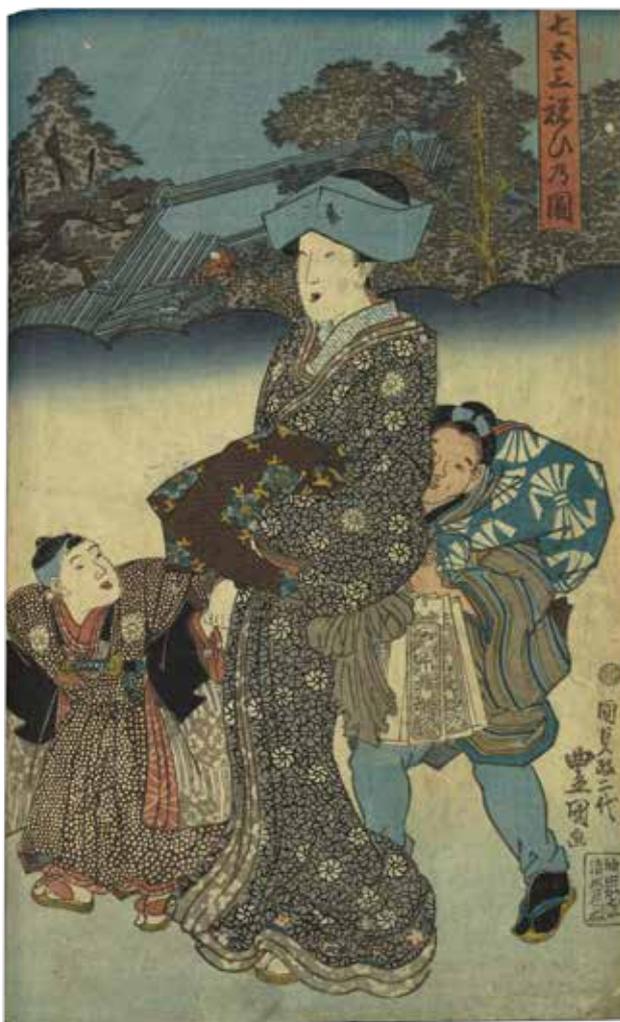


風呂敷

ふろしき



国立国会図書館蔵

日本の知恵、
プラスチックの知恵

菓子折りから布団まで、包んで運ぶ布

大名たちが湯屋での敷物や衣類を包んだことから始まり、江戸時代の銭湯では庶民にも便利に使われるようになった風呂敷。百貨店の前身である白木屋や越後屋などの大店では、丁稚が納品時に屋号のついた大風呂敷を背負って歩き、格好の広告塔となりました。

風呂敷の大きさは菓子折りを包むような68センチ角くらいから、布団や箆筒までも包める238センチ角まで、用途に合わせてさまざまなサイズがあります。火事の多かった江戸では常に布団の下に敷き、非常時には布団を包んで背負って逃げました。

物を包み、自在に形状を変えて運ぶ風呂敷のように、現在、情報通信分野で、半導体を護る機能で高く評価されているのが、住友ベークライトの「スミコン」® EMEEGシリーズ。湿気や衝撃に強く、高い実装性と信頼性があり、半導体を通してデジタル家電や車などさまざまな暮らしの進化に貢献しています。



半導体封止用 エポキシ樹脂成形材料

デリケートな半導体を封止し、湿気や衝撃などの外部環境から保護するエポキシ樹脂成形材料。従来は、臭素系難燃剤なしには実現できなかった難燃性規格の最高峰のUL94V-0を、住友ベークライト独自の配合技術で達成。その製品開発を通して、臭素系難燃剤不使用ということで、環境負荷低減にも貢献しています。

